

第5講座 古文

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

奈良の都のひがし町に、しをらしく住みなして、明暮茶の湯に身をな
し、興福寺の、花の水をくませ、かくれもなき楽助なり。
ある時この里のこざかしき者ども、朝顔の茶の湯をのぞみしに、兼々
日を約束して、万に心を付けて、その朝七つよりこしらへ、この客を待
つに、大かた時分こそあれ、昼前に来て、案内をいふ。

亭主腹立して、客を露路に入れてから、提灯をともして、むかひに出
るに、客はまだ合点ゆかず、夜の足元するこそ、をかしけれ。あるじお
もしろからねば、花入に土つきたる、芋の葉を生けて見すれども、そ
の通りなり。兎角心得ぬ人には、心得あるべし。亭主も客も、心ひとつ
の数寄人にあらずしては、たのしみもかくるなり。

むかし功者なる、茶の湯を出されしに、庭の掃除もなく、梢の秋のけ
しきを、そのまましておかれしに、客もはや心を付けて、いかさまめ
づらしき、道具出べきとおもふに、あんのごとく、掛物に、「八重葎しげ
れる宿」の、古歌をかけられる。

（井原西鶴『西鶴諸国ばなし』）
*1 興福寺の、花の水 興福寺にあった、「花の井」という名水。
*2 楽助 安楽に生活を送る人。
*3 朝顔の茶の湯 早朝、朝顔の花を観賞しながら行う茶の湯。
*4 七つ 午前四時頃。
*5 案内をいふ 来訪を告げる。
*6 露路 茶室を囲んでいる庭で、客を待たせる場所が設けてある。
*7 夜の足元 夜道を歩くときの歩き方。
*8 芋 ここではサツマイモのこと。葉や花が朝顔に似ている。
*9 数寄人 風流を好む人のことで、ここでは茶人。

*10 掛物 掛け軸。

*11 「八重葎しげれる宿」 惠慶が詠んだ「八重葎茂れる宿のさびし
きに人こそ見えね秋は来にけり」の歌のこと。

問一 線ア・①を現代仮名遣いのひらがなで書きなさい。

ア 客たちが約束を忘れていたから。
イ 客たちが皮肉が通じなかったから。
ウ 客たちが風流を理解しなかったから。
エ 客たちの振る舞いが立派すぎたから。

問二 線①「あるじおもしろからねば」とありますが、なぜこのよ
うに感じているのですか。その理由として最も適当なものを次のう
ちから選び、記号で答えなさい。

ア 客たちが約束を忘れていたから。
イ 客たちが皮肉が通じなかったから。
ウ 客たちが風流を理解しなかったから。
エ 客たちの振る舞いが立派すぎたから。

問三 線②「かくるなり」の意味として最も適当なものを次のうち
から選び、記号で答えなさい。

ア 軽くなるのである。
イ このようになるのである。
ウ 十分でなくなるのである。
エ 格別なものとなるのである。

問四 線③「功者なる」と対照的な人物を表している言葉を、文中
から五字以内で書き抜きなさい。

--	--	--	--	--

問五 筆者は、茶の湯を催すにあたってはどんなことが大事だと言っているのですか。二十五字以内で書きなさい。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

阿波の国に、智願上人とて国中に帰依する上人あり。めのとなりける尼死に待て後、上人のもとに、おもはざるに駄を一疋まうけたりけり。

これにのりてありくに、道のはやきのみにあらず、あしきみちをゆき河をわたる時も、あやふきことなく、いそぐ要事あるときは、むちのかけをみねどもはやくゆき、のどかにおもふ時はしづかなり。ことにおきて、

ありがたくおもふさまなるほどに、このむまほどなくしにければ、上人をしみなげきけるほどに、又すこしもたがはぬ馬いできにければ、上人よろこびて、さきのやうに秘蔵してのりありきけるに、ある尼に霊つきてあやしかりければ、「たれ人のなにごとにおはしたるぞ」ととひければ、「我は上人の御めのとなりし尼也。上人の御事を、あまりにおろかならずおもひたてまつりしゆゑに、馬となりて、ひさしく上人を負ひたてまつりて、つゆも御心にたがはざりき。ほどなく生をかへて侍しかども、

ひじり猶わすれがたく思たてまつりしゆゑに、又おなじさまなる馬となりて、いままこれに侍なり」といふ。上人これをきくに、としごろもあやしくおもひし馬のさまなれば、思ひあはせらる事どもあはれにおぼえて、堂をたて、仏をつくり供養して、かの菩提をとぶらはれけり。馬をばゆゆしくいたはりてぞおきたりける。執心のふかきゆゑに、ふたた

び馬にむまれて心ざしをあらはしける、いとあはれなり。これ建長の比の事なれば、いまの事也。 (橘成季『古今著聞集』)

*1 帰依 〓 神仏や高僧を信じて、その力にすがること。

*2 めのと 〓 乳母。 *3 駄 〓 荷物を運ぶ馬。

*4 ことにおきて 〓 その馬に乗るにあたって。

*5 ゆゆしく 〓 とても。 *6 建長 〓 一二四九―一二五六年。

問一 線①「すこしもたがはぬ馬」とありますが、どういふところが違わなかったのですか。その説明にあたる部分を文中から探し、その初めと終わりの四字を書き抜きなさい。

問二 線②「霊つきて」とありますが、霊の正体は何でしたか。十字以内で書きなさい。

問三 線③「おろかならず」の意味として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 浅はかな考えではない。 イ いいかげんなものではない。

ウ 未熟なものではない。 エ 単なる偶然にすぎない。

問四 線④「いとあはれなり」とありますが、これは何に対する感想を述べているのですか。「乳母」という言葉を使って書きなさい。

練習問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

昔、晴明が土御門の家に古い白みたる老僧来たりぬ。十歳ばかりなる童部二人具したり。晴明、「何ぞの人にておはするぞ」と問へば、「播磨国^{*1}の者にて候ふ。陰陽師を習はん志にて候ふ。この道に殊にすぐれておはします由^{*4}を承りて、少々習ひ参らせんとて参りたるなり」といへば、晴明が思ふやう、「この法師は、かしこき者にこそあるめれ。我を試みんとて来たる者なり。それに悪く見えては悪かるべし。この法師少し引きまさぐらん」と思ひて、「供なる童部は、式神^{*7}を使ひて来たるなめりかし。式神ならば召し隠せ」と心の中に念じて、袖の内にて印を結びて、ひそかに咒^{*9}を唱ふ。さて法師にいふやう、「とく帰り給ひね。後によき日して、習はんとのたまはん事どもは教へ奉らん」といへば、法師、「あら、貴」といひて、手を摺りて額に当てて立ち去りぬ。「今は往ぬらん」と思ふに、法師とまりて、さるべき所々、車宿など覗き歩き、また前に寄り来ていふやう、「この供に候ひつる童の、二人ながら失ひて候ふ。それ賜りて帰らん」といへば、晴明、「御坊は希有の事いふ御坊かな。晴明は何の故に、人の供ならん者をば取らんずるぞ」といへり。法師のいふやう、「さ^{*12}らに^{*11}あが君、大きな理候ふ。さりながら、ただ許し給らん」と詫^{*13}びければ、「よしよし、御坊の、人の試みんとて、式神使ひて来るが、うらやましきを、ことに覚えつるが、異人をこそさやうには試み給はめ、晴明をばいかでさる事し給ふべき」といひて、物よむやうにして、しばしばかりありければ、外の方より童二人ながら走り入りて、法師の前に出で来ければ、その折、法師の申すやう、「まことに試み申しつるなり。使ふ事はやすく候ふ。人の使ひたるを隠す事は、さらになふべからず候ふ。今よりは、ひとへに御弟子になりて候はん」といひて、懷より名簿引き

出でて取らせけり。

この晴明、ある時、広沢の僧正の御房に参りて物申し承りける間、若き僧どもの晴明にいふやう、「式神を使ひ給ふなるは、たちまちに人をば殺し給ふや」といひければ、「やすくはえ殺さじ。力を入れて殺してん」といふ。「さて虫などをば、少しの事せんに必ず殺しつべし。さて生くるやうを知らねば、罪を得つべければ、さやうの事よしなし」といふ程に、庭に蛙の出で来て、五つ六つばかり躍りて池の方さまへ行きけるを、「あれ一つ、さらば殺し給へ。試みん」と僧のいひければ、「罪を作り給ふ御坊かな。されども試み給へば、殺して見せ奉らん」とて、草の葉を摘み切りて、物を誦むやうにして蛙の方へ投げやりければ、その草の葉の、蛙の上にかかりければ、蛙真平にひしげて死にたりけり。これを見て、僧どもの色変りて、恐ろしと思ひけり。

家の中に人なき折は、この式神を使ひけるにや、人もなきに葎を上げ下し、門をさしなどしけり。

*1 晴明 安倍晴明。平安時代を代表する陰陽師。

*2 土御門の家 晴明の自宅。

*3 古い白みたる かなり老いぼれた。

*4 具したり 連れていた。 *5 播磨国 現在の兵庫県。

*6 引きまさぐらん からかつてやろう。

*7 式神 陰陽師が妖術の行使に使う神。姿を現さずに自在に不思議を行う。

*8 印を結びて 術を行うために手の指で特殊な形を作つて。

*9 咒 まじないの言葉。呪文。

*10 あら、貴 ああ、ありがたい。

*11 御坊 僧を敬った言い方。

*12 さらに 全く。

*13 うらやましきを、ことに覚えつるⅡ半ばうらやましくも、けしからんことと思った。

*14 異人Ⅱ私以外の人。

*15 名簿Ⅱ師として仕える相手に服従を示すために差し出す名札。

*16 生くるやうを知らねばⅡ生き返らせる術を知らないの。

*17 真平にひしげてⅡぺしゃんこにつぶれて。

*18 蓐Ⅱ格子の裏側に板を張った戸。

問一 ― 線①「悪く見えては悪かるべし」の現代語訳として最も適当

なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 愚かな者と見下しては失礼だろう。

イ うまく教えられなければ失礼だろう。

ウ たいしたことのないように見られてはまずかろう。

エ 不作法な振る舞いをしては不名誉だろう。

問二 ― 線②「ひそかに咒を唱ふ」は、誰の動作ですか。最も適当な

ものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 晴明

ウ 供なる童

問三 ― 線③「さて法師にいふやう」とありますが、この時の晴明の

気持ちを説明したものとして最も適当なものを次のうちから選び、

記号で答えなさい。

ア 得体の知れない老法師など早く帰ってほしいと思っていた。

イ このあと老法師はどう行動するだろうかと興味深く思っていた。

ウ 今日は忙しいので後日ゆっくり教えてあげようと思っていた。

エ 自分の術がうまくいったかどうか不安に思っていた。

問四 ― 線④「大きな理候ふ」とは「いかにももつともなことです」

という意味ですが、老法師はどんなことが「もつともなこと」だと言っているのですか。

問五 ― 線⑤「さる事」は、どんなことを指していますか。次の

にあてはまる言葉を十字以内で書きなさい。

老法師が晴明を

問六 ― 線⑥「やすくはえ殺さじ」の現代語訳として最も適当なもの

を次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 優しくは殺せないだろう。

イ 理由もなく殺せないだろう。

ウ 安心して殺せないだろう。

エ 簡単には殺せないだろう。

問七 この文章の内容と合っているものを次のうちから一つ選び、記号

で答えなさい。

ア 老法師は、自分の使った式神を晴明から隠せと命令されたが、

無視してそのまま帰った。

イ 式神を使うのは簡単だが、他人の使った式神を隠すのは難しい

と言つて、老法師は晴明の力に感心した。

ウ 晴明は、人をのろい殺すことも、殺した人間を生き返らせるこ

とも自由にできた。

エ 若い僧たちは晴明の力を試そうとしたが、逆に晴明に

たしなめられて恥ずかしい思いをした。